



第40回デンマーク 看護研修報告



2014年8月18日～9月1日
東海大学医療技術短期大学

目 次

デンマーク看護研修シラバス	1
看護研修日程	2
事前研修内容	4
事後研修内容	5
研修報告レポート	6

授業科目名：国際理解と
デンマーク看護研修
単位/時間：2単位/30時間
対象/開講：13KF・14KF
／夏季集中
担当教員：中田 芳子、後藤 雪絵

教育目標との関連：○該当する ◎特に該当する

1. 人間愛を深め、生命の尊厳と人間性の尊重を基調とし、調和の取れた社会人としての成長をめざす	2. 看護に関する理論および技術を学び、看護実践の基礎的能力を身につける	3. 主体的に学習を継続し、問題意識を持って探求する姿勢を身につける	4. 保健医療福祉における看護の機能と社会的役割を認識する	5. 保健医療福祉のなかで生じる問題を理解し、倫理的・道徳的に対処する能力を身につける	6. 関連諸科学を統合して人間理解を深め、看護観の確立をめざす
◎	○	◎	○		

I 授業概要：

研修の目的は、「諸外国の異文化に触れ、そこから日本を考える機会にする。主にデンマークの社会・文化・福祉および医療や看護の実際に触れ、これからの医療のあり方、自己のあり方について考えを深める機会とする。」ことである。本学は開学以来、東海大学建学の原点であるデンマークにおいて、人間尊重の福祉と愛の看護に触れ、幸福に、その人らしく生きること等について考える研修を継続している。デンマークは、寝たきり老人ゼロの国としても有名であり、本学開学当時におけるデンマークの社会保障制度は、国民一人ひとりを温かく見守る、世界に卓越したものであった。看護も愛、温かさ、ヒューマニズムを基調として実践され始めていた。デンマークの福祉は、一つの町、村に則した体制がとられており、一律ではない。原点は、「コーディネーターは患者さんであり、その家族である」としている。そして、この体制を作ったのは、デンマーク看護協会のパワーと政治力を持ったリーダーシップによるものである。体制は書物によっても理解できるが、そこに流れている精神は、その文化の中に入って初めて自分のからだで実感できるのではないだろうか。デンマーク看護研修の成果は、歴史と文化、そこに生活する人々の多様な価値観に直接触れ、感動したり、考えたりすることを通して、一人ひとりのこれからの人生に生かされていくものと確信する。また、看護は、「看護する者（看護師）の全人格を通しての行動」である。この研修の成果が、看護職者としての自己成長にも大いに生かされていくことを期待する。

この研修は、単なる見学旅行ではない。参加にあたっては、授業要旨を充分理解した上で明確な目的意識を持っていることが必要である。さらに、研修期間が2週間と長いので、先ず健康であることを求める。また、参加者の選考は面接等によって決定する予定である。

1. 履修定員：20名
2. 対象者：東海大学医療技術短期大学の学生
3. 費用：旅行費用、研修費用等は、別途、パンフレットに掲載する。
4. 引率：研修には引率教員が同行する。
5. 事前準備：引率教員とともに、具体的目標を明確にし、目標達成に向けての準備を行う。
デンマークでの研修を有意義に行うために、日頃から国内の医療システムや社会制度について関心を持ち行動することを期待する。また、研修に先立ち、施設見学や文献学習を行う。なお、英語の語学力は重要である。研修を希望する学生は、各自、英語あるいはデンマーク語の学習をすることが望ましい。
6. 報告書：研修終了後、報告書を作成する。研修レポートA4サイズ40×40、1枚程度 他

II 学習の到達目標：

- ①デンマークの歴史と文化、そこに生活する人々の多様な価値観に直接触れ、日本および自己のあり方や生き方を考えることができる。
- ②デンマークの保健・福祉および医療・看護の実際に直接触れ、これからの医療・看護のあり方、自己のあり方について考えを深めることができる。
- ③自己の持つ力を駆使して、異文化の人々と積極的にコミュニケーションを取ることができる。
- ④研修を効果的にするため、それぞれの役割を十分果たしながら参加者同士が協力することを通し、協働の姿勢を養うことができる。

IV 準備学習等（予習、復習、留意事項）：

- ①事前学習のスケジュールに沿って、あらかじめ研修に必要な知識をしっかりと学ぶこと
- ②英語のリスニング、スピーキング力をつけておくこと

V 教科書：

VI 参考文献、その他の教材：

VII その他：

第40回デンマーク看護研修日程

月日	曜日	訪問地	内容
2014/8/18	月	成田空港/チューリッヒ/コペンハーゲン 東海大学ヨーロッパ学術センター (TUEC) 泊①	成田空港発 LX161 10:25 チューリッヒ着 15:50 チューリッヒ発 LX272 17:25 コペンハーゲン着 19:15 <専用バスでTUECへ>
8/19	火	コペンハーゲン (TUEC泊②)	午前 国民高等学校見学 午後 フレデリクスボー城見学
8/20	水	コペンハーゲン (TUEC泊③)	午前 「デンマークの社会」山本孝行氏 (TUECにて) 高齢者住宅見学 午後 ホームドクター訪問
8/21	木	コペンハーゲン (TUEC泊④)	午前 デンマーク看護協会 午後 自由研修
8/22	金	コペンハーゲン (TUEC泊⑤)	午前 幼稚園見学 夕方 同窓会とのBBQパーティー
8/23	土	コペンハーゲン (TUEC泊⑥)	自由研修 (コペンハーゲン周辺)
8/24	日	シルケボー (ダンホステル①)	コペンハーゲンからシルケボーに移動 (アンデルセン博物館、レゴランド見学)
8/25	月	シルケボー (ダンホステル②)	8:30 VIAユニバーシティカレッジシルケボー看護学部訪問 「デンマークの健康教育と看護の学士プログラムの紹介」 10:30 プレゼンテーションと討議 13:00~ 翌日の研修について 14:00~ シルケボー患者ホテル見学
8/26	火	シルケボー (ダンホステル③)	8:30~12:00 シルケボー病院見学 13:00~ 医療短大学生プレゼンテーションとグループワーク 18:00~21:00 デンマーク学生と医療短大学生の食事会
8/27	水	シルケボー (ダンホステル④)	8:30~12:00 コミュニティケアセンターとホームケア見学 13:00~15:00 振り返り 18:30~21:30 デンマークの先生宅 (シルケボーで夕食のご招待)
8/28	木	シルケボー (ダンホステル⑤)	自由時間、パーティー準備 14:00~16:00 40周年記念パーティー (シルケボーキャンパス)
8/29	金	コペンハーゲン (ヒルトンコペンハーゲン エアポートホテル①)	10:00 VIAユニバーシティカレッジ オーフス看護学部訪問 10:45~11:30 演習「解剖・生理学演習」 12:15~13:45 臨床看護技術演習:学生によるデモンストレーション オーフスからコペンハーゲンに移動

8/30	土	コペンハーゲン (ヒルトンコペンハーゲン エアポートホテル②)	自由研修
8/31	日	コペンハーゲン/成田 (機中 泊)	<専用バスでコペンハーゲン空港へ 7:20> コペンハーゲン発LX1267 9:40 チューリッヒ着 11:35 チューリッヒ発LX160 13:00
9/1	月	成田空港	成田着 7:50

2014 年度デンマーク研修事前研修

- 2014 年 4 月 1 日 (火) 新入生ガイダンスにて、第 40 回デンマーク看護研修について説明。
 4 月 2 日 (水) 2, 3 年生ガイダンスにて、第 40 回デンマーク看護研修について説明。
 4 月 17 日 (木) 16 時 50 分～ 第 40 回デンマーク看護研修説明会実施。
 4 月 21 日(月)～5 月 9 日 (金) 参加申し込み期間
 5 月 13 日～5 月 23 日 選考面接

回	月日 (曜日) 時間	場所	実施内容
1	6 月 3 日 (火) 16 時 50 分～	KN201	1. 自己紹介 2. オリエンテーション 研修目的、研修スケジュール、事前学習他 課題の提示 3. 旅行会社からの説明 (1 回目) (パスポート、荷物、現地外貨、海外研修旅行傷害保険、旅行日程 他)
2	6 月 10 日 (火) 16 時 50 分～	KN201	1. 役割分担の決定 リーダー、サブリーダー、会計、食事係、パーティー係、写真 (記 録) 係、保健係 研修内容の記録の分担 飛鷗祭の presentation のリーダー 2. 学習内容、等について 事前学習、英語の presentation 3. 部屋割りについて 4. 事務からの説明 (奨学金など)
3	6 月 17 日 (火) 16 時 50 分～	KN201	1 英語の presentation の方法、テーマの決定 2. 英会話の練習①
4	6 月 25 日 (水) 16 時 50 分～	KN201	1. 食事の計画 2. 40 th party 3. 課題の提出 4. 旅行会社からの説明 (2 回目) (現地通貨の換金の依頼、海外研修旅行傷害保険の申し込み他) 5. 日本看護協会の歴史の学習、質問事項の確認 6. 英会話の練習②
	8 月 4 日 (月) 10 時～11 時 30 分		日本看護協会見学
5	8 月 5 日 (火) 9 時 20 分～16 時	KN201	1. 事前学習の進行状況と今後の予定 2. 英会話の練習③ 3. MR SA 採取 4. 先生宅の dinner の割り振り 5. 事前学習の発表会①
6	8 月 7 日 (木) 9 時 20 分～16 時	KN201	1. 事前学習の発表会② 2. 英会話の練習④ 3. 40 th party 4. 旅行会社からの説明 (3 回目) (現地通貨の換金、最終確認) 5. お土産の確認 6. 各係より 7. 記録用紙の配布 9. 英語の presentation 準備、リハーサル

事後研修

回	月日(曜日) 時間	場所	実施内容
1	9月22日(月) 16時50分～	KN201	1. 事後レポートの提出 2. 飛鷗祭準備
2	10月7日(火) 16時50分～	KN201	1. 飛鷗祭準備
3	11月3日(月)		飛鷗祭 プレゼンテーション 掲示

研修参加者数

1年生	11名
2年生	6名
教員	2名
合計	19名

グルントヴィ国民高等学校の見学

〈概要〉

グルントヴィ国民高等学校は、デンマーク独特の教育であり進学のための教育ではない。デンマークの学生は、高校卒業後すぐには大学に行くことが少なく、アルバイトをしてお金を貯め政界を旅行し自己の世界観を広げ、他国の文化や考え方の違いを学び、将来の進路の選択に役立てている。グルントヴィ国民高等学校で学ぶ期間は、普通3～4カ月で夏の期間は短期のコースがある。長期コースは、4、6、8カ月コースがある。学べる内容は、福祉系、土木系、美術、音楽などの様々な科目がある。入学には試験はなく、小学校から高校までの成績も関係なく18歳以上なら入学は可能である。男女比は、4対6である。入学する人々の動機は、学びたいことがある人、技術を身に付けたい人、または、自己の未来に迷った若者が自身のことを考えるためなどである。宿舎は1人部屋、2人部屋があり、必ず宿舎に入ることが入学の条件である。各部屋には、ベッド、机、シャワー、とお入れが備え付けられている。食事は食堂で、全員一緒に食べる。

グルントヴィ国民高等学校の目的は

①学校なので教育はもちろんのこと様々な科目から好きな科目を選択して学ぶことができる。(午前3時間、午後3時間)

②若者の共同生活のため様々な問題が生じるが、生徒だけで解決することで解決力を養う。問題が生じても教員は仲裁に入らない。

親から離れて暮らす＝独立する⇒責任が伴う。

③民衆的な価値観を身に付ける。

〈質疑応答〉

Q：選挙権は何歳から？

A：18歳

Q：ンマーク人は何歳くらいで結婚するのか

A：30歳前後

〈学生の学び〉

全ての人が平等に学びたいことを学ぶことができ、自分の将来について迷っている人もグルントヴィ国民高等学校で学び、友人や教師と語り合うことができ、新たな自分を見出せることができるのはよいと思った。入学には成績が関係なく、在学中もテストが無いというのは、日本では考えられないことであり驚いたが、成績によって自分を評価しないというのはデンマークらしいと思った。私は、このような施設が日本にもできるとよいと思った。

「デンマークの社会」講義

〈概要〉

1970年にデンマークの学術センターが設立した。デンマークに設立した背景として、1934年に内村鑑三氏に影響を受け創立者松前重義博士が、デンマークに訪れた際に、デンマークのデモクラシー(民主主義)に影響を受けたためであった。他にも歴史やデンマーク語、美術、国民高等学校についても日本との考え方の違いに大きな影響を与えた。

デンマークは日本と同じ立憲君主国であり、民主主義の国としても多く知られている。元々はノルウェーやスウェーデンなどはデンマークの領土であったが、それぞれ独立していき現在の領土になった。

デンマーク人の特徴としては歩きながら物事を考えたり、猝に囚われない個人主義である。また日本とは違い、縦社会ではないため上司に対しても自分の意見を述べるなど一人一人の意志を尊重し良くないことは良くなるように変えていく判断力が高く、早い。常に社会に参加していることがわかるため議会の国民投票も参加率が80%以上である。また外交的であり、常に外国との交流を深めたくさんの国と親密な関係を築くことができている。

〈学生の学び〉

日本とは違い一人一人自分の意志を持ち、その意志を相手に伝えることで多くの問題を話し合いで解決していくことがわかった。言葉にしてお互いが納得するまでディスカッションすることが社会参加に繋がると考えられる。ただし、その話し合いが上手くいかずにいると離婚など家庭内では問題が起きてしまう。男女関係なく仕事をしているデンマークの人にとって子供を産む年齢が高かったり、子育てが上手くいかず離婚するケースも多いとの説明もあった。

デンマークは、日本と同じく中央政府と地方自治体によって構成されており、国民は社会のひとりであるという考えが強く、選挙などにも積極的に参加している。

税金も高いことで知られているデンマークだが、「税金を取られている」という感覚はなく「貯金している」という感覚と聞き、そのような考えができるのは税金の使い道について国民も決定していくことができるシステムが整い、決定に国民自ら参加しているからであると考えた。

ホームドクター訪問

〈概要〉

家庭医（ホームドクター）の利点は、医者と患者が一生付き合いしていくため、そこから大きな絆と信頼が生まれることである。一生とは「ゆりかごから墓場まで」であるため、成長のフォローをすることも出来る。例えば女性の場合、子供から大人になってからはもちろんのこと、結婚して妊娠した子を診てくれる。また生まれてきたその子を診てくれ、その子の成長を見てくれる。このように人の人生をサイクル状に見て診てくれるのである。他にも利点があり、病気のことだけでなく、健康・仕事のストレス・悩みなどどんな問題でも家庭医が相談にのってくれる。しかし、この相談は主に看護師が電話で行っており、医師の判断が必要だと考えた場合にのみ、来院してもらうという形をとっている。高齢者の場合は訪問することもある。また看護師の仕事には、電話対応以外にも子供のワクチン接種投与・採血・心電図測定・身体重測定などがあり呼吸器関係や小児関係の仕事が含まれている。そのため、家庭医で働く看護師は病院で長く経験をしてきた人が多く、医師との連携がとても重要視されるため、とても自尊心が高まる。このような看護師の仕事が増えてきたのは約 10 年前からで、30 年前までは全て医師が行っており、責任も全て医師であった。しかし、看護師の仕事の幅が広がったため、医師は研究に費やす時間が増え、研究が進んでいる。

このホームドクター制は、約 100 年前からある制度であるが 10 年~15 年前に「この制度はなく」と言われていたのだが、今はホームドクターが医療の中心になってきている。それは「まず家庭医が患者を診断し、専門医を紹介し大きな病院で治療する。そして、治療が終わった自宅に帰り、家庭医で働く看護師がサポートしてくれる。」と、このように全ての道筋を家庭医が引いてくれるからである。しかし、デンマークの医療制度は常に発展しているため、また改善される可能性がある。

デンマークは人口の 550 万人に対して家庭医（クリニック）は 3600 か所ある。このうち 60%が何人かの医師がチームとなったクリニックであり 40%が 1 人の個人経営である。

〈質疑応答内容〉

Q：家庭医に家庭医はいるのか？

A：いる。自分や家族は診てはいけない決まりがある。

Q：なぜ、白衣を着ていないのか？

A：大きな病院では着ていることが多いが、クリニックは衛生的な問題で着ない。持っただけはいるが必ず白衣は半袖でなければいけない。

Q：家庭医になるためには？

A：医学部で6年、臨床で5年、クリニックでの研修が2~3年と全てで約15年かかる。

〈学生の学び〉

デンマークは家庭医がいることで国民は安心して暮らしているのだと感じた。また、家庭医がいることで、国全体の医療が成り立っているということが分かった。そして看護師の仕事の多さに驚くと共に責任が重いため自尊心が高まるということから、看護師の技術の高さが求められていると感じた。しかし、信頼が持てる医師と看護師に一生診てもらえる安心感は、他の何にも代えることが出来ないと感じた。

デンマーク看護協会の訪問

〈概要〉

デンマーク看護協会の目的は、看護師が団体意識を持つというものである。2007年が看護師の加入率が一番多かったが、2008年に大型ストライキが起きたため、人数が少なくなった。しかし、現在は7万4千人と増え、デンマークの看護師の8割以上が看護協会のメンバーになっている。看護師の平均年齢は45.1歳と日本よりも高めである。また、看護師の6割は病院で働いており、残りは医療の一部門や民間企業の公務員として働いている。そして、認定看護師の団体は35グループあり、職場の代表者が1286人いる。デンマークでは、このように職場の代表者がいなくては違法になってしまうのだ。

看護協会のビジョンは、活きた協会作りを目指しており、看護職を発展、看護師の地位向上のために努力をしている、というものである。看護協会の重点事項は、「給料」「雇用契約について」「病気などになってしまっても給料をもらう努力をしている」というものである。仕事をクビにする場合は、雇用者は3か月前にその人に伝えなければいけない。自ら辞める場合も、1か月前には雇用者に伝えなければいけない。また、看護師の休みは、6週間ある。多くの看護師は、6週間のうちの3週間で取り、夏休みとする人が多いということであった。育児休暇については、女性は出産予定日の2か月前から育児休暇を取り、産まれてからも育児休暇を取る。デンマークでは、女性だけでなく男性も育児休暇を取れ、その間も給料は支払われるようになっている。また、看護協会のアプリがあり、自分の携帯から勤務スケジュールなどが確認できるようになっている。「Mind Form」というアプリもあり、自分の状態をアセスメントが出来る。このアプリを通して患者が家に居ながら、医者や看護師とコミュニケーションがとれるというものである。日本と同様にデンマークでも高齢化が進んでおり、病院の病床数が不足している状況である。そのため、老人ホームや訪問看護、デジタル看護ケアが対応している。

デンマーク看護協会には、学生組織もある。学生組織の目的は、学校での教育を発展、実習をよりよいものにするためである。学生組織には、7800人もの学生がおり、看護学生の8割が看護協会のメンバーになっている。また、年に7回ほど理事会のミーティングが行われている。理事会のメンバーだけでなく、地域の理事会とも協力をして看護祭りのようなキャンプも行われている。そこでは、看護の技術の練習をしたり、外国に研修旅行をしたりしている。そして、各学校でイベントを行い、メンバーの増加のために努力をしている。

〈学生の学び〉

デンマークは、年齢に関係なく自分の夢を追うことのできる素敵な国だということが学べた。日本も年齢関係なく大学に通うことはできるが、極少数である。それは、日本では、30代にもなってまだ大学に通っているとあまり良く思われないからである。しかし、デンマークは全くそういうことはなく、自分のやりたいことが出来たら、いつでも挑戦できることのできる社会だということが学べた。また、デンマークは職場に必ず代表者がいて、代表者がいないと違法になるということも学ぶことが出来た。そして、デンマークの看護師の有給休暇は6週間もあり、それを連続して長期休暇として使うことができるのはいい

森の幼稚園の訪問

〈概要〉

この幼稚園は公立で、区が運営している。44 人の子供がおり、3 歳から 4 歳の子供と、5 歳から 6 歳の子供の 2 つのグループに分かれて森へ行く。グループを分けることにより、色々な活動をすることが可能になる。3 カ月毎に子供たちの親を招待しパーティーを行う。子供たちは踊りや歌を、親は食べ物を用意する。パーティーを開く理由は、子供と親の関係が大切だからである。親との関係のことでもうひとつ、親は朝に幼稚園に残ること、森と一緒に来ることが可能である。

ここでは子供たちが朝食をとることも可能である。朝来たら、森に行く前に皆で屋外か屋内で遊ぶ。屋内では木造の玩具やお絵かきなどで遊ぶ。森から持ち帰った自然のものも置いてある。森には昼食を持っていき、8 時から 9 時に先生とやる気のある子供たちで準備する。屋外にはハーブガーデンがあり、そこで育てた野菜などを食べる。さらに野菜の育ち方を実際に見て学ぶことができる。週に 1 度、外でたき火をして料理もする。

森では毎日活動が変わる。森のもので遊ぶことや、材料を持参して工作することもある。活動にはテーマがあることもあれば、好きなように行動することもある。海や湖に行くこと、そこで釣りをすることもある。自然と文化を大切にしているため、映画館や劇場、美術館にも行く。

今まで子供が病院に行くような事故は 2 回しか起きていない。それは鎖骨を骨折してしまったときと、大きな石が手に当たってしまったときであるが、それ以外に事故はない。先生が見ることのできる範囲内で、子供たちはいつも元気に、特に森の中では自由に駆け回って生き生きと遊ぶことができている。

〈学生の学び〉

日本の幼稚園や保育園では、森の中で自由に遊ぶことが許されていない。それは危ないと判断されているからなのだが、デンマークの森の幼稚園ではしっかり大人が見張っているため子供たちが自由に遊ぶことができている。そして森の中で子供たちが自由に遊ぶことによって、免疫力や集中力が高くなり、助け合いの精神も育まれると知った。自然への関心も高くなり、それは大人になってからも続くという実例もあるため、こうした森での自由な活動はとてもいいことであると分かった。

同窓会とのBBQパーティー

〈概要〉

日本に留学したことのあるデンマークの人が同窓会を組織している。その方々のBBQパーティーに私たちも参加させていただいた。

BBQの準備のために役割分担して、食事係りを中心に支度をした。キッチン係10名、火起こし3名、物を運ぶ係り4名に分かれて行った。森の幼稚園の帰りにスーパーで材料を購入し、学術センターの戻ってからは下ごしらえをし、17時よりBBQが開始された。

参加されたのは同窓生のみなさんとその家族など約20人程度であった。肉を焼くのは自分たちで交代しながら行った。和気あいあいと中庭で行っていたが、途中雨により室内にて再開された。食材を中に運び入れ、キッチンで手分けして肉や野菜を調理し、参加した方々に提供した。

〈学生の学び〉

みんなで手分けして準備することで、自分の役割をしっかりと遂行するよう一人一人意識して取り組むことができ、作業の効率が良くなることが学べた。また、手が足りていないところでは、声を掛け合い手伝ったりすることが大切だと学ぶことができた。雨が降ってきてしまった時には、食材を家の中に運ぶ、調理したりなど自分の仕事を見つけ出し、急な雨にも対応することができた。協力しあうことでスムーズに物事を進めることが出来ることを学ぶ事が出来た。お互いを気遣い合い、手助けしあう、声をかけることで絆も深まり、仲間同士だけでなく、同窓会の方々とも仲良くなることができ、とても楽しかった。

翌日からの自炊では、当番でなくても早く起きた人から手伝うなど、仲間意識の向上につながり、今までは時間がかかっていた朝食の準備も協力することで効率の良い行動をすることが出来ることを学ぶ事が出来た。

なと思った。また、日本よりもクビにする人に伝える日にちが長いということも学んだ。その間に、他の仕事も見つけることが出来るため、良いシステムだと思った。また、女性だけでなく男性も育児休暇を取り、積極的に育児に協力しているということも学んだ。また、デンマーク社会も電子化が進んでいることも学ぶことが出来た。看護協会のアプリがあり、それはとても便利で良いシステムであると感じた。学生組織も活発で、看護学生の8割もの学生が、看護協会に加入しているということも学ぶことが出来た。

VIA ユニバーシティカレッジシルケボー看護学部の看護教育

〈概要〉

VIA ユニバーシティカレッジという学校はデンマークに7校あり、その中の6校には看護学部が存在している。シルケボーにある VIA ユニバーシティカレッジの1学年の人数は、約90人いる。全学年の人数は、約270人ほどである。VIA ユニバーシティカレッジの教育は主に2つのことを目標に並行して行われている。1つ目は、看護職としての技術を身につけること。2つ目は、看護ケアを開発させるための学術的な技術を身につけることである。このような目標を立て、その人に合った教育が行われている。

VIA ユニバーシティカレッジでのカリキュラムは、卒業するためには3年6ヶ月かかる。210ECTS (単位)のうち120ECTSは理論・理念、90ECTSは臨床実習が占めている。同じくカリキュラムには14モジュール制がある。学士論文を書くことで20ECTSとなる。14モジュールには各テーマをもとに行われている。1、看護職・看護ケアはどのようなものなのか。2、健康と病気。3、身体的疾病。4、基礎臨床。5、多職種との連携。6、慢性病の患者・自宅ケアの患者。7、患者・家族とのコミュニケーション。8、精神的病にかかっている患者。9、看護の倫理。10、集中ケア。11・12、臨床。13、選択科目。14、看護職について学ぶ。

〈学生の学び〉

VIA ユニバーシティカレッジシルケボー看護学部での看護教育内容を聴き、演習や実習の多さに驚いた。しかし、多いことで臨床のことを早くから学ぶことができることはとても良いことだと感じた。私たちも1学年から実習があるが、デンマークの学生と比べると実習期間も短く、実習内容もまったく違うことから、学習のペースの違いについて学んだ。3年6ヶ月ある学びの中で各学年の実習では、その学年に合った看護の内容を学習している。そのことでゆっくりと段階を重ねていき学習できることを学んだ。その人に合った学習内容で進めていけることはとても良いと感じた。デンマークの看護学校と日本の看護学校は自分が想像していたものと違っており、私はデンマークの看護教育が良いと感じた。なぜならば、自分に合った教育を行うことができるからだ。

VIAユニバーシティカレッジシルケボー看護学部、 看護技術のプレゼンテーションの見学

〈概要〉

モジュール2

この演習は、一年生で学習する基礎看護技術である。仙骨部に褥瘡のある患者を椅子からベッドへの移乗するために、天井リフトを使用し介助を行うという内容であった。天井リフトを使用することで、患者側は安心、安楽に移乗することができ、患者を安定した体位で移乗することができる。看護師側としても、負担になる動作が最小限に抑えることができる。また、ベッドの高さや枕の位置を調節してすべての動作に無駄がないように工夫していた。さらに天井リフトで患者を移乗させている最中、看護師は必ず患者を支え、患者に与える揺れを最小限に抑えるようにしていた。天井リフトを使用するための条件は、看護師が二人いる状態であるということと、患者自身の力で8割以上動くことができない場合である。そのため、天井リフトを使用するという事は、最終的な判断であり、患者の残存機能を使用することが望ましいとされている。

モジュール10

この演習は、三年生の前期に学習する看護技術である。緊急ケアを必要とする患者であり、患者の様子を見て臨機応変に判断し、対応できる技術を身に付けるという内容であった。患者の様態は、教員がモニターで管理し、学生はその変化に適切な対応ができるかどうかを見られる。例えば、自転車に乗っているところ事故を起こし、頭部と前下腿部に損傷を負った患者が緊急で運ばれてきた。またハンドルが腹部に当たったとの報告もある。その時、体内出血を起こしていれば血圧が低下し、脳内出血を起こしていれば血圧が上昇する。そのような違いをきちんと理解し適切な処置を行うことができるか、などを学んでいく。緊急の場合病院へ搬送するまでの時間が五分程度であり、その間に病状を判断し、準備を整えなければならない。その時のための訓練ともいえる。

〈学生の学び〉

デンマークの看護学部の演習室は実際の病院にほとんど近い状態に作られているため、病院実習の時にあまり困らないのではないかと考えた。しかし、数年後には訪問看護を中心にすることに切り替えられてしまうため、時代遅れになってしまうというデメリットがある。また、緊急ケアを必要とする患者に対応する演習では、実際の患者を想定して状態をコントロールできるので、より現実的に演習が行われているということを学んだ。さらに、患者の安全、安楽を守ることはもちろんであるが、看護師側の安全、安楽まで考えて教育が行われていることも学ぶことができた。

シルケボー患者ホテルの訪問

〈概要〉

患者ホテルは、2006年に開業された。1～2階まであり、全部で17部屋ある。デンマークでは患者ホテルが現在17施設ある。それらのそれぞれのホテルにはコンセプトがある。例えば、産婦人科のある病院では、出産後の妊婦さんが利用しやすいつくりになっている。シルケボー患者ホテルでは、整形外科が多くを占めているため、内科や化学療法など看護ケアを一番多く行っているホテルである。患者ホテルはイギリスから伝わり、20年前にデンマークのオーデンセで始まった。最初のころは、治療ケアは病院で自ら行い、薬もなく、すべてのケアが病院で行われていた。しかし、現在はこれらが改善され、治療ケアとその後のアフターケアとが別々となっている。現在は看護師が4人1グループになり働いている。4人のうち1人が受付をし、電話にも対応している。平日は7:00～15:00(4人) 12:00～20:00(1人) 15:00～23:00(1人)となっている。夜は看護師が勤務していないため、病棟の看護師が駆けつけてくる。ホテルを使用する患者の条件として、食堂まで自分で行けることなどがある。またその対象は、手術前の患者、手術後の患者、治療を受けている患者などがある。患者は無料で患者ホテルを利用できるが、その家族は475.00DDKを払う必要がある。しかし、患者を補助する立場の人(ヘルパーなど)は患者同様無料となる。患者は自分の衣服を着用し、痛み止め以外の薬は自ら持ってくる必要がある。ホテルの看護師は、1日の流れを決定し、手術前・手術後のケア、薬の調剤、採血などを行っている。患者ホテルは経済面でもコストが低いいため良いとされている。ホテルからは朝・昼・夕と3食出され、病院と同じベッドがある。個室のためリラックスできることが利点である。

〈学生の学び〉

デンマークでは、日本と病院制度が異なっていて、病院では必要最低限の治療しか行わず、その後のケアは病院以外の場で行われる。その1つとして、患者ホテルがあることが理解できた。私は、患者ホテルというものを初めて知ったので、とても驚いた。そして同時に、施設内容、設備が整備され、心地よく療養できる環境になっていることにとても感銘を受けた。このような場で過ごすことによって、患者の病気は一層、回復が早まるのだと思った。

シルケボー病院の見学

〈概要〉

ユトランドの中心地には、5つの病院があり、その中心に「シルケボー病院」がある。シルケボー病院の主な役割として”診断センター”と”予定手術”がある。このシルケボー病院に訪れる患者の多くは、予定手術や診断・治療を目的に来ている。病気を早期発見することのできる診断センターには、様々な診療科の専門医がいるため、同時に色々な部位を診察してもらうことが出来る。

5つの病院を合わせて病床数 630床 そのうちの 120床がシルケボー病院。

外来数 357600人/年、手術数 38000回/年、退院数 4600人/年。
病院目標は、3つある。

①DIALOG(対話を心掛ける)

②DYGTIGHED(高いレベルのケアを行う)

③DRISTIGHED(新しいことをしてチャンスを得る姿勢)

病院では、短期入院を心掛けていて、短期を目指すために

①栄養 ②情報 ③患者を動かす ④痛み止め に気を使っている。

手術室見学では、実際に学生の一人が手術台に仰向けになり、手術時のシュミレーション、機材の説明、手術器具の説明などを受けた。

説明後、病院内見学(手術室や薬剤室など)とグループに分かれて病棟見学を行った。

〈質疑応答〉

Q：傷の治りが悪くても短期の入院を心掛けるのですか？

A：入院している時から観察して判断するため、治りが悪かったら入院期間を延ばします。

Q：なぜ看護師は、みんなサンダルを履いているのですか？

A：靴下には、雑菌が繁殖しやすいからです。

〈学生の学び〉

今回、デンマークのシルケボー病院に行き、実際に看護をする現場を見学して、日本とデンマークの看護についてや、病院についてなどのことを詳しく学ぶことが出来た。傷の手当などのケアも見せていただき、医療の現場を間近で見学することが出来た。また、病院としての目標を持つことで、医療従事者の一人一人が一人の患者に対して手厚い看護をすることができるのだと考えた。見学を委とおして看護をする気持ちは、全世界共通だということを学ぶことが出来た。

また、デンマークの施設や病院では、看護の面でリフトを多く使用していた。日本とデンマークの看護は、基礎は同じで看護者は常に患者を考えていることが分かった。

東海大学医療技術短期大学生によるプレゼンテーション 「日本の四季について」

〈概要〉

日本の四季について各グループがテーマにそって、英語でプレゼンテーションを行った。このプレゼンテーションは日本で授業や実習の合間の6月から8月にかけて準備をした。英語についてはTUECのヤコブ氏に監訳していただいた。

- ①「年越し、お正月」：おせち料理、紅白歌合戦、初詣などについて説明した。
- ②「節分」：豆まきについて説明した。
- ③「お花見～春～」：桜について説明した。夜桜なども写真にて紹介した。
- ④「夏～花火、祭り～」：花火、浴衣、屋台、お祭りについて説明した。実際の浴衣の写真も見せた。
- ⑤「紅葉～秋～」：四季それぞれの紅葉の写真を紹介した。秋のいわれなどを説明した。
- ⑥「冬～富士山～」：様々な富士山の写真を見せた。富士山の冬を紹介した。

昼休憩の後、デンマーク学生とディベートタイムで、看護師になったきっかけと看護師に必要な能力をテーマで話し合った。デンマークの学生の看護師になったきっかけは「人を助けたいから」という答えが多かった。

〈学生の学び〉

デンマークの学生は、非常に日本の看護教育に興味を持っていた。デンマークは税金で教育費を補っている為、日本の制度との違いが多かった。また、デンマークの学生は、医療制度の違いや教育費の問題などについても関心が高かった。

デンマークの学生の年齢は、バラバラで年上の方で40歳代の方がいた。様々な世代の方々がいても、皆が仲良く協力していて非常に過ごしやすい環境だと感じた。勉強面でも様々な考え方の意見を聞くことができるので、良い所だと思った。実習期間についても大きく異なっていた。期間も日本より長い間行っていて、内容も様々で日本と比べ、より実践的な実習となっていた。より多くの経験を積める形になっていた。

ディスカッションをとおして、自分達の英語の未熟さにも気付かされた。私たちが話したことも、きちんと伝わったのはごくわずかだったと思う。しかし、看護師になったきっかけや看護に必要な能力について、おおよそ一緒だということを理解し合うことができた。

学生交流会への参加

〈概要〉

8月26日（火）の夕方、デンマークの看護学生の方々に学生交流会に招待された。デンマークの学生、20名くらの方と一緒に食事をしたり、ゲームをした。

メニュー内容

- ・チキン
- ・ハンバーグ
- ・果物
- ・ポテトサラダ
- ・ご飯のようなもの
- ・にんじん
- ・にんじんとドライフルーツを混ぜたようなもの
- ・ポテトチップス

ゲーム内容

- ・ラウンドボール（テニスボールと羽子板のようなものを使用した野球のような遊び）
- ・ピンセットでまめのようなもの（フィッシュオイル？）を掴んで渡していく遊び
- ・花一門女（はないちもんめ）

〈質疑応答内容〉

- ・名前（自己紹介）
- ・年齢
- ・学年
- ・日本に来たことがあるか
- ・‘いただきます’の意味や言い方
- ・‘乾杯’の言い方
- ・彼氏いるのか、どこが好きなのか、何年付き合っているのか

〈学生の学び〉

日本語が全く通じないという環境の中で、みんなそれぞれ協力してコミュニケーションをとろうとしていた。デンマークの学生さんもゆっくり話してくれたり、身体を使って伝えようとしてくれていて、言葉がつうじなくてもコミュニケーションをとろうという姿勢が大切なのだと感じた。また、笑っていると学生さんも笑いかけてくれるので笑顔でいることはとても良いことなのだと改めて学ぶことができた。

英語の授業をすることよりも、実際にたくさんの人と関わる中で言葉を学ぶ方が楽しいし、関心が持てるのだと思った。

コミュニティセンターの見学

〈概要〉

デンマーク看護研修の二週目の水曜日、私たちはシルケボーに新しく建築を予定しているモデルハウスの見学をした。コミュニティセンターで意識していることは、残存機能を活かすことであり、高齢者の部屋は「その人の家」という考え方である。普段は、高齢者の身体の状態に合わせて優先度を決めている。また、部屋に住んでいる住人に敬意を払うことを忘れないようにしている。介助を含む日常生活の中で、高齢者が自分の意志とは関係なしに無理やり何かをされることはない。さらに、コミュニティセンターは、多くの人が暮らしているため、“個人的な空間”と“公共的な空間”が交差する場所で介護が行われている。

また、常にアットホームな雰囲気を目指しているため、介護用の器具が見えすぎているといけない。例えば、天井リフトは壁の一部になっていて、一目見ただけでは、リフトがあることに気付かない。また、お風呂場のほうまで動くようにできていて、リフトを入浴時も活用できるようになっている。

その他にも、トイレや洗面台など、ほとんどのものが動かせるようになっていて、介護スタッフが一緒に入るときに、介護のスペースをとれるようなつくりである。

今後、2016年に129ヶ所、2019年に72ヶ所、2022年に72ヶ所、設立を計画している。

〈学生の学び〉

介護の面だけを考えるのではなく、その部屋に住む高齢者の気持ちをととても考えていて、住みたいと思うような工夫がととてもされていた。

日本は色を取り入れることがないように思う。デンマークの施設では、部屋の中に緑や赤などの色が多く取り入れられていて、目で楽しめるところがとても多かった。日本でも、介護施設や病院で、介護や看護とは直接的には関係のない部分での工夫を考えていく必要があると考えた。

高齢者住宅の訪問

〈概要〉

デンマークの病院は、経済面を十分に配慮し、病院内では病気が完治するまで患者さんを看るのではなく、最低限必要な治療が終わったら退院するという仕組みである。それは、高齢者も同様であるが、本人の希望や日常生活に医療が必要な場合、高齢者住宅へ移行するという仕組みとなっている。

高齢者住宅への入居者は、日常生活がほとんど自立していない高齢者となっている。短期滞在と長期滞在に建物が分かれており、短期ではほとんどがリハビリ目的、長期では、認知症による日常生活の自立困難な高齢者や終末期患者まで幅広く生活している。

施設ではあるが、個々のプライバシーがしっかりと守られており、家具や小物は患者自身のものを利用している。リラックスした空間で生活できるかつ、ケアは24時間体制であるため、長期滞在の高齢者の部屋には常にナースコールが備えられている。また、家族との面会は、病院のように時間指定されることはないため、患者家族の都合に合わせていつでも面会可能であり、家族は患者の部屋に宿泊も可能である。このように、患者だけでなく家族にとっても安心できるのが特徴である。

〈学生の学び〉

日本では、本人の意思を第一に尊重するというよりも、家族や周りの人が老人ホームへの入所を決定してしまうことが多い。デンマークでは、本人の意思を一番に尊重する。また、患者のプライバシーはしっかりと守られていること、過ごしやすい環境を提供されていることから、こういったことを初めて『高齢者を尊重する』と言えるのではないかと考えた。

病院見学等の振り返り

〈概要〉

8月25日(月)にVIAユニバーシティーカレッジシルケボー看護学部でElse先生とKatrine先生が私たちに課題を出された。「①シルケボー病院の訪問を通してデンマークと日本の相違点と共通点、②デンマークに来て一番印象に残っていること、でありこれらを英語で説明してください」という内容であった。

8月27日(水)、振り返りは、5つのグループに分かれて発表した。発表時、皆緊張していた。片言の英語であったため先生達に伝わらないことがあったが、発音を変えてみたり、読み直してみたり、辞書を活用したりそれぞれが工夫して自分たちの考えを伝えようと努力していた。

相違点	共通点	印象に残ったところ
<ul style="list-style-type: none"> ・ナースシューズが自由 (シルケボー病院) ・手すりがない (シルケボー病院) ・マスクをしていない (シルケボー病院) ・病室にカーテンがない (シルケボー病院) ・入院日数が短い (ケアセンター) ・看護師がその日の患者の様子で薬の投与を変えられる (シルケボー病院) ・ナースステーションがない (シルケボー病院) ・廊下のライトはピンク色 (シルケボー病院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘンダーソンなどの理論の活用 (シルケボー病院) ・手術の準備は区別されている (シルケボー病院) ・ケアプランを決めること (ケアセンター) ・薬を患者に投与するときは患者確認を行う (シルケ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リフトがあること (シルケボー病院) ・患者、看護師、医師がフレンドリー (シルケボー病院) ・アクセサリーを医療者が身につけていること (シルケ) ・治療過程の動画がある。 (シルケボー病院)

() 内は、場所を示す

〈学生の学び〉

デンマークと日本の相違点、共通点を見つけながらシルケボー病院等を訪問することで印象深い学びが得られたと考える。日本は容姿からしっかりしなければ看護はできないと言われているが、デンマークでは、容姿が全てではなく、技術がしっかりしていれば誰でも信頼される看護師となるということから、看護師一人一人の技術を大切にしているデンマークに魅力を感じ、いつか働けたら良いと考えた。実際に本学の卒業生がデンマークで働いているということを知って不可能なことではないとも思った。また、英語で発表のため一人一人が英語の練習をしていた。通じない時もあったが無事に発表を終えることができ、ほっとした。

デンマークの先生のお宅訪問

〈概要〉

私たちは、8月27日(水)の夕方、デンマークの先生方6名のお宅に招待していただき、夕食をご馳走になりながら、デンマークのご家庭を見せていただく機会となった。

私は、その中の一人のElse先生のお宅に学生3名と伺ったので、その時の様子を紹介する。Else先生の旦那さんがダンホステルまで迎えに来てくださり、自宅に向かう。Else先生、旦那さん、息子さん、息子さんの恋人が向かえてくださった。

食事(ミートボール、じゃがいものふかしたもの、にんじんとレーズンの炒め物、かぶの漬け物)を準備していただき、とてもおいしかった。その後、Else先生の庭を見学させていただいた。そこでは夕食に出たポテトとにんじんが作られていた。そして庭で作られたラズベリーを食べた。また、農業で使うものや車、様々なものがしまわれている小屋を見学した。その後家の中を見学した。家の中の2階は屋根裏部屋の様になっていた。

その後、デザートをいただいた。(いちご、いちごジャムにミルク、または生クリームをかけて食べる)デザートを食べた後は会話をしたりUNOをしたりして楽しんだ。

キャンドル、キャンディ、国旗、チョコレートなどをおみやげとして頂いた。

〈学生の学び〉

Else先生のお宅へ行き、先生のお宅はVIAユニバーシティカレッジから少し離れていて、動物や牧場がたくさんある地域であり、家もとても大きく、そのような自然の中で育った息子さんは多くのことを学んだのだろうと感じた。

周りに高い建物が無く、草原地帯であったため帰り道に見た夕日がとてもきれいに見えた。とても良いところだと改めて感じた。

家族の仲も非常に良く、明るく、Else先生の息子さんの恋人も笑顔に溢れていて初対面の私たちをととても暖かい気持ちで出迎えてくださり、デンマーク人の人々の暖かさを実感する体験となった。

VIA ユニバーシティカレッジシルケボー看護学部40周年記念式典

〈概要〉

初めに、歓迎の言葉がVIA ユニバーシティカレッジ健康科学部学部長であるオーサー・ルディクスン先生からあった。デンマークの看護をデンマークで実際に学ぶことができるという、今回の研修の素晴らしさを改めて実感することができた。

その後、デンマークの学生の方々からデンマークの歌のプレゼントがあった。

VIA ユニバーシティカレッジの副部長であるインガーマルグレーテ・イェンセン先生の話では、松前重義博士がデンマークを訪れ国民高等学校に感銘を受けたこと、そこから始まり現在の協定関係があることを改めて知ることができた。その後、総長のあいさつを代理で谷口学術センター所長、医療短期大学学長あいさつを代理で中田先生が話された。そして、私達研修生からお礼の気持ちを込めて、「幸せなら手を叩こう」と「Best Friends」を歌い、「恋するフォーチュンクッキー」の踊りを披露した。言葉は通じないが、手拍子をしてくださったり、楽しんでいただくことができとてもよかったと思った。

最後にVIA ユニバーシティカレッジのシルケボー担当学科長のビルギッテ・ヒンガウル先生の話があり、デンマーク看護研修が40周年を迎えられたのは、とても価値のあることで、友好関係があるからこそ継続されていることを深く感じた。

〈学生の学び〉

私たちが披露した踊りや歌はどうだったか、と参加された方に聞いたところ、「とてもよかった。楽しかったよ。」とおっしゃってくださった。たとえ言葉が通じなくても一所懸命に、感謝の気持ちを表現したことが伝わってよかったと思った。

VIA ユニバーシティカレッジのイェンセン先生やヒンガウル先生の話の中にあっただように、今までの多くの人々の協力のもとに現在の素晴らしい友好関係があり、40周年という一つの大きな節目を迎えることができていることを知ることができた。

解剖生理学演習の体験

〈概要〉

オーフス看護学部で体験した解剖生理学の授業では、人体模型とパソコンを使用して主に学習していく。パソコンでは、プログラムが用意されており、そのプログラムの中から選択して学習することができるようになっている。人体模型も使用し、プログラムの中の絵と見比べながら人体の構造について学ぶことができる。

今回はそのプログラムの中から自分で学習したい項目を選択し説明を聴いたりクイズを行った。また人体模型を使用し体の部分を一つ一つ分解していくことで、臓器の位置や向きなどを確認し人体の構造をより学ぶことができた。

解剖学の授業は、1年生はモジュール1～3、2年生はモジュール5、7～8、3年生はモジュール10となっており、看護師にとって人体の構造を理解することはとても重要なものである。その為、基本的なものから応用まで幅広く学ぶことができるようになっている。

〈学生の学び〉

プログラムは、自宅でも学習できるようになっており、絵や説明も付いているため理解しやすく、またクイズと取り入れることにより理解力も深まり覚えやすくなっていると感じた。

解剖学生理学の授業は1年生から3年生まであり、1年生ではモジュールが進んでいくにつれ授業時間も増えていく。(最大40時間まで増える。)また、1年生では主に解剖と生理学という基礎的なものを学習し、理解してから実習に臨むことができるようなプログラムになっていることがわかった。

臨床看護技術演習のプレゼンテーション（オーフス看護学部）の見学

〈概要〉

デンマークでは、病院内でミスが起きるのは「連携ができていないから」という思考を持ち、他職種との連携が医療界で注目されていることから、医学生も看護学生と共に演習に参加している。また、演習は病院と同様のものを着用し、同じ環境の下で行っている。(現在、ヨーロッパ内で感染が流行しているため、衛生面は普段から十分に行っている。)

演習内容は、バイタルサインの測定で、疾患の早期発見につながるため毎日の変化に気づくことが重要である、説明があった。

看護学生の方の指導の基に患者役、看護師役を決め、【呼吸数(脈を測るふりをして呼吸数を測定)・SPO₂(患者さんの示指で測定)・体温(患者さんの耳介部から測定)・脈拍・血圧(電子血圧計にて測定)・意識レベル】の測定を行った。

〈学生の学び〉

学生のうちから、医学生や他職種と演習や学習を行うことで、将来就職した場でも連携が非常にとりやすいことが分かった。また、病院と同じ医療器具を使用することや同じ環境の下で行うことで、慣れ、イメージもつきやすいことが分かった。デンマークと日本の看護学生の演習や学習内容にとっても興味があったため、デンマークの普段行っている演習内容を体験させてもらうことができるとも貴重な経験となった。演習の仕方や意識しながら行うことは私たちが行っていることと変わらなかったため、国が違ったとしても看護は共通なのだ気づくと嬉しかった。